

ドラムで感動を伝えよう

ミュージックコース

パーカッション



講師 土居 秀行
ひでゆき

略歴

パーカッショニスト

15歳からドラムを始め、バンド「沙弥音」でアルバム5枚をリリース。奈良の新薬師寺(国宝)での月1回の満月の夜の奉納演奏を5年間継続する。朝崎郁恵(奄美島唄)、EPO(Vo)、佐渡裕監督によるジルヴェスタ ガラコンサートではカナダのピアニスト、DD Jacksonと共演。また、自身のソロ「TAIKOMAN」、スチールパンバンド「Rustic Pans」、「深川和美の童謡サロン」をはじめ、多くの活動を継続中。その他にも演劇、ミュージカル、エキシビションでの演奏や制作も多数手がけている。

advice points

- 会場は、音楽室、または広めの会場が望ましい。
- 学校にドラムやさまざまな打楽器があることが望ましい。

より発展的なワークショップを実施するために

- 通常の音楽の授業で、ドラムだけではなく、歌や踊りも交えてコラボレーションしてみる。

目的

- ・自由に音を出し、段階的に習得するプロセスを楽しむ。

効果

- ・既成の理論やテクニックにこだわらず、自由な環境で自由に演奏する楽しさを感じる。

到達点

- ・自分自身の思いを表す音楽言語を生成し、組み立て、表現する。



事前学習

ドラムソロのCDやDVDの鑑賞をする。

ワークショップの流れ(3日間く2コマ/日)

ドラムのソロ演奏鑑賞

1人ずつ自由にドラムをたたき、奏法演習

演奏を終えるときの基本的なフレーズを学習

自由な演奏と、一定のリズムパターンの反復の練習

演奏を終えるときの基本的なフレーズを用いて演奏

セッション演奏発表会と講評

事後学習

演奏発表会をビデオに撮影し、鑑賞する。

…ワークショップを実施して…

講師の感想

回を重ねるごとに生徒の演奏に変化が感じられ、心の扉を開いて音を出す喜びを実感しているようだった。その雰囲気が生徒全体に連鎖して、最終日の発表では、一体感と意識の高揚につながり感動的だった。演奏する喜び、表現できる幸せを生徒たちから与えてもらった。

先生の感想

生徒がドラムや楽器に興味をもち、向上心やモチベーションが高まった。演奏の幅が広がるにつれ、各自が何らかの思いをもつようになり、リズム感も向上した。発表会で演奏した生徒は達成感を得て、鑑賞した生徒も刺激を受け、生の演奏から心に響き伝わるものがあった。

生徒の感想

- ・発表会のために昼休みも練習し、本番は緊張したが、講師に励まされて元気が出た。
- ・ドラムを初めて体験して楽しかった。講師のドラムの姿を見てすごく感動した。
- ・プロの先生の演奏の力強さ、足でドラムを打つ姿がとても印象に残った。